

キャン ドウ

CanDo アフリカ

特定非営利活動法人アフリカ地域開発市民の会(CanDo)会報 2017年12月[第81号]



活動の方向性	マラウイでの活動の開始を目指して	
	永岡 宏昌	
ナイロビ便り	大統領再選挙	永岡 宏昌
ひと	インターンを終えて	岩崎 弘治/木村 正司/古田 幸花
	インターンからスタッフに	大門 志織
	自己紹介—新事務局員	飯野ちひろ
ケニアでの活動	2017年5月~11月	
フォト・レポート	ケニアの歴代大統領と選挙	
	事務局から	

マラウイでの活動の開始を目指して

代表理事 永岡 宏昌

9月発行の会報80号では、2018年2月にケニアでの活動終了を予定していることを報告しました。現在、マシंगा県の小学校における住民参加による教室補修は、各校で完了に近づいています。住民から選出し、育成した地域保健ボランティア(CHV)による活動では、地域での保健活動を促進するとともに、地域と学校において相乗効果をもたらすよう、小学校での保健活動に取り組んでいます。

並行して、その後にマラウイで展開する活動の開始準備も進めています。事務所はマラウイ南部のブランタイヤ市に置く予定です。ブランタイヤ市を拠点に、100キロほど東にあるパロンベ県で活動を開始できるよう、たびたび訪問して、県知事をはじめ行政官、地域の首長、初等学校関係者、村人などからさまざまな話を聞いたり、話し合いを行ったりしています。

パロンベ県ではさまざまな課題があります。初等学校の教室が足らず、雨が降ると授業ができない仮設教室や青空教室が多くあること。エイズ発症につながるHIV陽性の住民や子どもが多いこと。子どもの妊娠・出産や早期結婚などが多いこと。初等学校での子どもの中退が多いこと。これまで、当会がケニアで取り組んできた課題と同様です。解決

には、地域の大人たちが、子どもが直面している健康と教育に関する課題について、より深く包括的に理解する知識、子どもを守る視点、解決のための技能を獲得し、実践していく必要があります。自律的な活動を展開できるよう、当会が協力することを考えています。行政官、教員、住民、保護者、と異なる立場の大人たちが協働して、さまざまな活動を連携させ、複合的な取り組みにより、相乗効果が生まれることを期待しています。

まず、マラウイで当会の最初の活動を形成するにあたっては、初等学校での住民参加による教室建設に焦点を当てる計画です。その活動を実施しながら、異なる立場の人たちの関係について見ていこうと考えています。行政官と住民・保護者、地域の首長—「チーフ」と称される伝統首長・集合村長・村長—などリーダーと住民、学校の教員と保護者、保護者のリーダーとフォロアー、そして子どもと大人たち。それらの関係を見ることから子どもが直面している課題への理解を深めていきます。そして、次の段階、その次、と当会の協力活動を進めて、地域の大人たちが子どもの健康と教育を保障する社会作りにつなげたいと考えています。2018年にマラウイでの活動の開始を目指しています。

ナイロビ便り

大統領の再選挙

永岡 宏昌

2017年8月8日の大統領選挙では、8月11日に現職のケニヤッタ大統領の当選発表後、有力野党候補オディンガが最高裁判所に異議申立てをしました。集計証書の偽造、コンピュータのデータ操作による選挙結果の偽造などが理由でした。9月1日に最高裁は同大統領選挙を無効とし、再選挙の実施が決定されました。最高裁が9月20日に公表した再選挙決定の理由のひとつは、34A(投票所の集計証書)や34B(選挙区ごとにまとめた集計証書)が原本でなかったり、署名がなかったりなどの問題が、全国290選挙区のうち70選挙区であったことでした。そもそも選挙委員長が34Aを確認せずに、34Bの集計のみで選挙結果を発表したことが、憲法ならびに関連法令に違反するとしてしました。コンピュータのデータ操作による偽造については確認されていないとのことでした。しかし、オディンガは、ケニヤッタをコンピュータが作り出した大統領と批判を続け、一部選挙委員の罷免、選挙集計のコンピュータシステムを請け負った会社や、投票用紙の印刷会社の変更を要求し続けました。そして、10月10日には、公正な選挙が行なえないとして大統領選挙立候補の取り下げを発表しました。

再選挙の日程は、10月26日に設定された

ものの、選挙委員が分断されて公正な選挙が難しいという委員長自らの発言などを受けて、人権団体が最高裁に、再選挙実施の異議申し立てを行ないました。最高裁は25日に再選挙延期を審理する予定でしたが、判事が集まらず、「審理できない」とする声明を出しました。召集後に、ひとりの判事の運転手が何者かに銃撃され負傷したことが関係しているようです。この緊張の中で26日に大統領再選挙が実施され、オディンガを強く支持する一部の地域では、住民が投票所や道路を封鎖して選挙の実施を拒みました。これらの地域で選挙ができないまま、10月30日に選挙委員会はケニヤッタの大統領再選を発表し、11月20日に最高裁が確認、28日に大統領就任式を行ないました。一方、オディンガは、イギリスやアメリカを訪問して自分の主張を展開し、経済ボイコットの働きかけや「国民の大統領」として就任式を行なう抵抗を試みました。就任式は直前に中止され、状況は収束に向かっているようです。

今回の出来事は、選挙の透明性を飛躍的に高めました。この経験が、憲法上、ケニヤッタが立候補できない次の2022年大統領選挙で、公正で平和な選挙の実現につながることを願ってやみません。

ひと インターンを終えて

CanDo に出会わなければ—

木村 正司

「CanDoに出会わなければ—」日本に帰国してから、その言葉が頭の中を巡っていた。

毎日のように食していたマンダジ 2 枚にチャイ 1 杯の甘味、町を歩いていると必ずかけられる「チャイナ！」の一言、快適とは言い難い車から過ぎていく緑と赤茶の野趣あふれる景色。2017 年 4 月から 10 月に経験した、食生活、住居環境、その他諸々のすべてが衝撃的だった。

施設拡充・環境を担当した業務では、迷惑をかけながらも上司や同僚から多くの手助けを借りて、取り組むことができた実感して

いる。現地の保護者ひいてはケニア人のマネジメント能力の向上、その達成のためのリスク回避に真剣に取り組んでいる CanDo には敬意にも似た念を抱きつつ、業務を終了した。

CanDo に出会わなければ、純真な理念と活動を知ること、ケニアの魅力を知ることなかった。いつかまた、国旗の色を具象化した国に戻りたい思いにさいなまれることもなかった。出会ってしまったが最後、CanDo に魅了されてしまう。

人と向き合うということ

古田 幸花

ケニアで保健担当のインターンとして過ごした 2017 年 7 月から 11 月までの 5 か月間は、今まで生きてきた中で一番、全方位から「文句を言われる」という経験をした期間だった。同時に、人との向き合い方やコミュニケーションの取り方について本当に考えさせられた期間でもあった。ケニアに着いた当初はケニア人スタッフの仕事への取り組み方やケニア人の文句の多さが理解できず、どうすれば仕事がうまく進むのかということに集中しすぎ、スタッフとぶつかってしまうことも多々あった。しかし一緒に働いていくうちに、彼らの文句の素直な人間臭さに気づき、そ

の言葉に耳を傾けることで彼らの本当の考えが理解出来るようになった気がした。同時に彼らも私が聞くことで徐々に心を開いて、一緒に仕事をしてくれようとしたと感じた。最後にスタッフに言われた「分かってくれようとしてありがとう」という言葉が、私にとってはケニアで頑張ってきた 5 か月間で得た勲章だ。

自分の意見や考えを、声を張り上げて主張しなければいけないような現在の社会の中で、ケニアは私に、人と関わって生きていく上で一番基本的かつ大切なことを、改めて気付かせてくれたような気がする。

お詫び 都合により目次とは構成が異なります。

ひと—インターンからスタッフに— イレギュラーがレギュラーな現場で

調整員 大門 志織

私は今年 6 月から 5 か月間、インターンとして地域保健活動に携わった。この分野の知識がほとんどなく、活動の内容を理解できるだろうかという不安を感じていた。

しかし実際始めてみると最も苦労したのは、日々発生するトラブルを解決することだった。研修や学習会のために事前の準備や確認を行なっている、当日現場に到着すると予想していなかった問題が毎回のように発生し、初めのうちはその対応に追われるばかりだった。しかしそのうち、問題が起こることが

通なんだと考えられるようになり、以前より余裕を持ってトラブル解決にあたることができるようになった。

11 月からはスタッフとして活動に関わることとなり、目の前の仕事を回すことだけで一杯だったインターン時代とは異なり、活動全体を客観的に見られるように思っているが、その理想にはまだ程遠い状態だ。残りのケニアでの活動期間で、スタッフとして恥ずかしくないような仕事をできるように努力したい。

ひと 自己紹介 新事務局員

飯野ちひろ



みなさんはじめまして。先月 11 月から東京事務所にて勤務している飯野と申します。中学・高校は鎌倉、大学・大学院はイギリスで過ごし、前職では日本と海外の青少年交流事業に携わっていました。ケニアには、大学時代にボランティアで 1 か月だけ滞在したことがあります。その時の経験が非常に印象

深く、いつか草の根活動に重きをおく NGO で働きたいと思っていました。協力(団体)のかたちが多様化する中、長きに渡り住民参加を通じたアフリカの課題解決に取り組んできた CanDo で働けることに早くも喜びを覚えています。

まだまだ慣れないことが多くありますが、一日も早く現地で活動されているみなさんのサポートになれるよう、また、常に学ぶ姿勢を忘れずにいることの大切さを心掛け頑張りますので、よろしく申し上げます。

ケニア共和国マチャコス地方マシंगा県での活動—2017年5~11月

◆小学校で

◇保護者の学校運営能力向上と施設拡充
—教室の建設、構造補修、基礎保全のための土留め壁造り—
・13校で教室の構造補修が完成。

◇保護者による環境活動

・4校で研修を実施—乾燥野菜作り、栄養研修及び乾燥野菜を給食で使う実習、マンゴーの接ぎ木、苗床、植樹、石積み。

◇教員への早期性交渉予防研修

・1教育区で実施。

◆地域で

◇地域保健ボランティア(CHV)育成

・カンゴンデ区ムシングニ準区で研修を実施。

◇CHVへの追加研修

○エイズ研修(3日): ムシングニ地域保健ユニット(CHU)で実施。
○早期妊娠予防(2日): 6CHUで実施。7CHUでCHVによる学習会を参与観察。
○子どもの保護(2日): 5CHUで実施。6CHUでCHVによる学習会を参与観察。
○衛生・栄養・こどもの発達(2日): 8CHUで実施。
○乾燥野菜研修(1日): 2CHUで実施。2CHUでCHVによる学習会を参与観察。

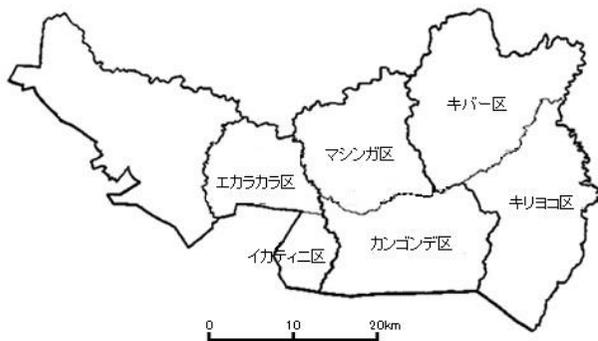
◇既存の地域保健単位(CHU)の再活性化

・カンゴンデCHUのキタンガニ地域、及びイトウンドウイムニCHUでCHV候補を追加選出し、新旧のCHV合同での研修を開始。2週目はCHVへの追加研修の各テーマを1日で講義。

*マシंगा県の左の6区で

8CHUを形成

- ・マシंगा区
—ムクス、カトゥリエ
- ・キバー区
—イーアニ
- ・エカラカラ区・イカティニ区
—エカラカラ、ズキニ
- ・キリヨコ区
—ミアンゲニ
- ・カンゴンデ区
—ミクユニ、ムシングニ



フォト・レポート

ケニアの歴代大統領と選挙

初代大統領

ジョモ・ケニヤッタ 1964年~78年



ケニアで最大の民族グループのキクユ人(生まれたときの名前はカマウ・ウェンゲンギ)。1963年の総選挙で、オギンガ・オディンガ(ルオ人)と率いた、KANU(ケニア・アフリカ民族同盟)がKADU(ケニア・アフリカ民主同盟)に大勝利し、ケニヤッタを首相とする内閣が成立。共和制に移行した64年、大統領に就任し、死去するまで務めました。

第2代大統領

ダニエル・アラップ・モイ 1978年~2002年



カレンジン人。1964年にKANUに吸収されたKADUの指導者のひとり。78年、副大統領から大統領に就任。82年、KANUの一党制を法制化しました。89年末、東西冷戦が終わり、欧米がアフリカの民主化を求め始めたので、91年に複数政党制復帰を受け入れます。野党候補が乱立した92年選挙では辛勝。97年の大統領選挙で再選。2002年、引退するにあたり、初代大統領の息子、ウフル・ケニヤッタへの継承を画しました。

第3代大統領

ムワイ・キバキ 2002年~13年



キクユ人。2002年12月の選挙で野党連合、NARC(虹の連合)の統一候補として、KANUのケニヤッタ候補に大差で勝利し、大統領に就任。2007年の選挙でPNU(国家統一党)の党首として再選。ライラ・オディンガ(ルオ人。オギンガの息子)候補が率いる野党ODM(オレンジ民主運動)は正当性について抗議。暴動が引き起こされました。国際調停で連立政権が発足(オディンガが首相)。13年3月、三選を禁止する新憲法下での初めての選挙で引退しました。

第4代大統領

ウフル・ケニヤッタ 2013年~



国際刑事裁判所に訴追されている状況で立候補。オディンガ候補を破って、2013年4月、大統領に就任(再選については、p.3参照)。

事務局から

報告

■9月30日、グローバルフェスタ JAPAN 2017 写真展の NGO 部門で、施設拡充・環境活動担当のインターンが撮影した、乾燥野菜入りの給食の写真が優秀賞を受賞しました。



◇組織

○9月24日、2017年度第2回理事会を開催。2017年度1月～8月の活動報告と会計関係の報告、及び2017年度9月～2018年度2月の活動計画案を確認しました。

◇国内活動

○9月30日～10月1日、東京・お台場センタープロムナードで開催された、グローバルフェスタ JAPAN 2017 に出展。パネル等を展示し、ケニアの物品を販売。ゲーム「バオ」のコーナーを設けました。

◇人の動き

- 9月22日、加藤 美奈(かとう みな)をインターンとしてケニアに派遣。
- 10月2日～11月12日、代表理事(兼 事業責任者)永岡宏昌がケニアに出張。
- 10月20日、事務局員 今村 純子が退職。
- 10月22日、インターン 木村 正司が研修期間を終了して、ケニアから帰国。
- 11月1日、インターン 大門 志織が調整員に昇格。
- 11月1日、事務局員として飯野ちひろが勤務を開始。
- 11月24日、田中 克昌(たなか かつまさ)、26日、篠原 和珠(しのはら かずみ)をインターンとしてケニアに派遣。
- 11月29日、インターン 古田 幸花が研修期間を終了して、ケニアから帰国。
- 12月1日、永岡がマラウイに出張。
- 12月3日、調整員 橋場 美奈がケニアから帰国。
- 12月5日、瀬田 麻美子(せた まみこ)をインターンとしてケニアに派遣。

■次号は2018年3月に発行の予定です。

CanDo アフリカ [第81号]

2017年12月24日発行

発行人: 永岡宏昌 編集人: 佐久間典子
発行: 特定非営利活動法人アフリカ地域開発市民の会 (CanDo)
〒110-0001 東京都台東区谷中2-9-14 第2森川ビル B号室
電話: 03-3822-1041
電子メール: tokyo@cando.or.jp
ウェブサイト: <http://www.cando.or.jp/>
郵便振替: 口座番号 00150-2-15129 加入者名 アフリカ地域開発市民の会